

丹沢の地で開業して

生駒憲広秦野尻皮膚科
(秦野市)

2017年5月に秦野市で開業しました生駒です。私は東海大学を卒業、同じく東海大学で2年間の初期研修を終えたのち、2001年に大学院生として東海大学医学部専門診療学系皮膚科学に入局いたしました。途中、2年ほど東海大学医学部付属八王子病院に出向していましたが、人手不足ということもありほとんど伊勢原で勤務、研究していました。16年ほど医局勤務をいたしましたが、父親が大病を患い、介護費用発生の可能性が出たり、子どもが成長し、学費も蓄えなければいけなかったりと周囲の環境が変化していくうちに、開業を意識するようになりました（今になって思えば、父親は何の経済的負担もかけず、開業20日後に他界し、子どもはまったく医者に興味がなく、このままだと杞憂に終わる可能性が高いです）。また私が退職する2年前に先代の小澤教授が退任され、教授不在のまま医局長を続け、その仕事の一端をするうちに精神的に疲れていったのはその理由の一つになりました。

2016年の夏ごろには開業の意向を医局に伝えましたが、当然開業のノウハウはなく、某卸業者のコンサルトに頼ることにしました。都心側や横浜中心方面への開業もあこがれはしましたが、美容皮膚科はほとんど興味がなく、イケメン先生でやっていけるほど自分の容姿に自信はなく、下世話な話、経済的に苦しくなっても本末転倒なので、自宅近くの県央部や大学勤務時代になじみのある県西部あたりで探していくことにしました。物件を買うほどの余裕はなく、賃貸物件を探して数ヶ所の物件に絞りましたが、どれも「帯に短し襷に長し」で悩んでいたところ、東名町田陸橋が完成し、自宅から東名までのアクセスが格段に向上し、大幅な通勤時間の短縮が可能になったため、自宅からの距離はありまし



オープニングスタッフと共に、クリニックの前にて

たが秦野市での開業を決心しました。もっともこの距離は意外に後々ボディーブローのように効きだし、疲労から便利だったコンパクトカーからクルーズコントロール付きの長距離が楽なディーゼルのSUV車への買い替えを余儀なくされ、反面、近所の細い道は面倒くさくてしょうがありません。大学時代に見た都内や山梨から通勤される先生方の車が大型車だったのは見栄だけの理由じゃないことがわかりました。

普通、激戦区で開業して、近隣皮膚科施設へ挨拶に行くと言われられると思いますが、わかっていたことですが秦野市には皮膚科医が少なく、挨拶に行っても歓迎され、反対の声も聞かれませんでした。が、その真の意味を知ったのは開業してからです。私が開業した後も流行っていなかったとは思えないのですが、ある皮膚科は「あとはよろしく！」と言わんばかりに市外のおしゃれなところに移転して行ってしまいました。開業医としては患者さんが増えることは喜ばしいことかもしれませんが、爪白癬の患者さんを診るたびに「〇〇クリニックで診断済み。閉院の為、当院でクレ〇フィ〇外用

継続」と詳記を書かなければいけないのは面倒です。田舎は患者がどうしても集中して疲れてしまうので、経済的な余裕ができたなら閉じるタイミングを考えていらっしゃる先生は多いのかもしれませんが。さすがに私は借金もあるので頑張ります。

クリニック名は生駒皮膚科を考えていましたが、ネットで「生駒」「皮膚科」と検索すると奈良県生駒市の皮膚科がズラッと検索され紛らわしいので、いささか「尾尻」という名称に抵抗感を持ちつつも、尾尻隧道というランドマークも近くにあったことから、地名はそのまま「秦野尾尻皮膚科」としました。今となっては、近くに住んでいる人にとっては

卑猥なイメージもなく、患者さんからの電話問い合わせにも対応しやすく、ネットで「秦野」「皮膚科」と検索すればすぐ出てくるので成功だったと思っています。ただ、造成地でグーグルの地図ではまだ山の中に案内されるのでその点ご注意ください。

開業してからも雨漏り、換気扇の故障や電気の不具合（欠陥住宅？）、プリンターの不具合など笑えないトラブルも多いですが、幸い従業員には恵まれ、開業10ヶ月で9,000人弱の患者さんを拝見させていただきました。今後も地域に根差した皮膚科診療をしてまいりたいと思いますので、よろしく願いいたします。

開院のご挨拶

楠 舞

ジャスミン皮膚科クリニック
(大和市)

平成29年3月1日、大和市に【ジャスミン皮膚科クリニック】を開院いたしました。

開院に際し、諸先生方にたくさんのご指導をいただき、何とか無事に船出することができました。この場をお借りして深謝申し上げます。

私は群馬県高崎市出身で、実家は学校法人の洋裁の専門学校を営んでおりました。いずれは家業を継ぐものと思っておりましたが、中学時代に病を経験し、医師を志すようになりました。北里大学に入学後は、皮膚科学の奥深さと勝岡憲生教授の男気に惚れ、そのまま母校の皮膚科に入局いたしました。医局在籍中に北里大学病院、衣笠病院、横浜労災病院、昭和大学藤が丘病院形成外科、稲田登戸病院、聖路加国際病院、北里大学北里研究所メディカルセンター病院等で勉強する機会をいただきました。できの悪い私を導いて下さった諸先生方には、どれだけ感謝してもしきれません。

途中で転職が訪れたのは、実家の学校法人の継承問題でした。理事長であった母と学校長であった祖母がほぼ同時期に他界し、後継者が決まらない状態でした。かと言って学生さんを預かっている責任上、



筆者（前列中央）とスタッフ

急に閉校する訳にもいかず、結局、理事でもない私が何とかして後を継ぐ形になり、そのタイミングで大学医局を離れることとなりました。年度半ばで退職願いを受け入れていただき、人事異動で医局の全ての先生方に多大なご迷惑をおかけしたことを、今でも心苦しく思っています。

そうして在校生が全員卒業できるまで、必死で理事長兼校長職を務めました。授業は職員の先生方が続けてくださいましたが、役所への様々な提出書類

や会議、学校での行事や一切の庶務経理雑務など、仕事量は予想以上でした。平日は高崎のビジネスホテルに連泊して学校業務、土日は自宅に帰り、皮膚科を忘れないようクリニックでアルバイトをしつつ、週末婚という生活でした。母を亡くしたショックと慣れない仕事に加え、祖母の相続問題まで勃発し、廃人寸前でしたが、精神的に支えてくれた主人がいたから、今、生きていられます。多くの方々に助けていただき、人のありがたみが一番身に染みた時期でした。

皮膚科医以外の仕事をしてみてわかったのが、私は皮膚科の仕事が一番楽しいということでした。法人解散後、暫くは勤務医をしておりましたが、自分の理想とする診療スタイルを実現したいと思うようになり、クリニックを開設するに至ったのです。……身の上話が長くなり申し訳ありません。

現在、開院して1年が経ちました。慎重に事を運びたい性格が災いし、なかなか先に進めませんが、できることを徐々に増やしている状態です。基本は保険診療が主体ですが、患者さんから美容の相談を受けることが多いため、各種美容治療も始めました。

ダウンタイムの少ない治療として、ロングパルスのアレキサンドライトとNd:YAGレーザーを導入し、表在性色素病変、レーザー脱毛、リフトアップ、ざ瘡、血管拡張、酒さなどに施術しております（完全に予算オーバーですが、自分自身にもできて、大変満足です）。地元の患者さんの様々なニーズにお応えできるよう、広い視野で勉強を怠らないようにしたいと思います。

「ジャスミン」のクリニック名は、大好きな花の名前からとりました。小さな花がたくさん咲いて、周り一帯が優しい甘い香りに包まれる、幸せな気分になれる花です。園芸が趣味なので、クリニックでもたくさんの笑顔の花が咲いてくれるようにと願いを込めて。

患者さんに「良くなった」と言ってもらえるのが最高の喜びです。大変なこともあります。好きな仕事ができていること、日々助けてくれる優秀なスタッフ達に感謝し、愛されるクリニックを目指していきたいと思っています。

今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

14年間の開業生活

私は平成4年に東京慈恵会医科大学を卒業し、東京慈恵会医科大学附属病院、東京慈恵会医科大学附属柏病院、西埼玉中央病院、神奈川県立汐見台病院を経て、平成16年4月にJR根岸線の磯子駅近くで開業しました。

開業に際しては、某製薬会社の方から紹介していただいた薬局の社長さんが、場所探しから始まって、クリニックの内装、開業に関する事務手続き、宣伝などすべてにおいてバックアップしてくれたので、苦勞せず開業までこぎつけられました。

開業して大変だったことは、やはり、診療以外に、経営、人事管理、総務などすべてを一人でこなさな



伊部美葉

伊部皮膚科クリニック
(横浜市磯子区)

ければならないことでした。特にスタッフに関しては、私に対する態度が急に悪くなった事務員、クリニックの飲み物を平気で自分のポットに入れて持ち帰る事務員、年末最後の日に突然辞めたいと言ってきた常勤看護師など、驚きと落胆の日々でした。私が解雇通告をしたスタッフも2人いました。その度になぜ辞めてしまったのかを考え、私の考え方や、事務員さん、看護師さんにしてもらう仕事の内容も少しずつ修正しながら今に至っていますが、今でもスタッフの募集、面接、雇用決断、新人スタッフの教育が一番憂鬱な仕事です。

逆に、開業してよかったということもあります。

その一つに、自分がやりたいことをすぐに実行できることです。

勤務医だと欲しいなあと思う機器や、やってみたい治療法があっても、病院の予算やリスクマネジメントの関係でなかなか望み通りにはいきません。

開業してシミのニーズが非常に多いことに驚き、当初は5%ハイドロキノンでがんばっていましたが、もちろん患者さんを満足させることはできず、2年後半にアレキサンドライトQスイッチレーザーを購入しました。開業するまでシミをレーザーで治療したことなどなかったのが、照射後どのような経過をたどるのか診るのが怖くもあり、楽しみでもあり、マンネリ化していた診療を新鮮なものにしてくれました。そして何よりレーザーのおかげでたくさんの患者さんを喜ばせてあげることができました。同様に、乾癬、掌蹠膿疱症、白斑、脱毛の治療に行き詰っていた時にV-TRACを購入して、治療の幅を広げることができましたし、痛がる液体窒素療法の代わりにモノクロ酢酸を塗布することで、子どもが「これ痛くないよ、これなら毎週来てもいい」と喜んでくれたこともありました。また、家族に付き添われてやっとの思いで通ってくる患者さんが多くなり、今後の高齢化も見据えて、約4年前から後輩の先生に外来をお願いして、その間往診することも始めました。

開業する前は同じ病院に3年以上いたことがなかったのも、同じ患者さんを長い期間ずっと診ることはありませんでした。開業して初めて10年以上もの長い付き合いになる患者さんがたくさんできました。長期間ステロイドを内服しているような難治性の皮膚疾患の方には、ステロイドの副作用を心配しながら、この先も良い状態をコントロールしてあげなければというプレッシャーも感じますが、近くのスーパーで、奥様を亡くされたばかりの男性から「先生～、今日の夕飯は何買ったらいいかなあ」（返答には困ってしまいますが）とか、マンションの清掃をさせていただいている女性から「あれー、皮膚科の先生じゃない？ このマンションに住んでたの？」など、気軽に声をかけてもらえると「あ～、町医者をやってよかったなあ」と感じます。さらに子どもに至っては、親戚のおばちゃんのごとく、「えー、ついこのあいだ赤ん坊だったのに、もう小学生!」「いつもママと来てたのに、1人で来たの？

顔もりりしくなって大きくなったね～」と感心するばかりです。最近は診察で患児の成長を見るのが楽しみの一つになっています。

今のスタッフがなるべく長く働いてくれることを願いつつ、これからも最新の医療を提供しながら患者さんたちとの交流も楽しんでいきたいと思います。

